木もれ日通信

Komorebi Tsushin

第52号
平成27年1月
つきだて花工房発
季刊誌

◎つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりとやさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

寒さ厳しい里山に降り立つ春の妖精は ピカピカと光る金色のドレスを身にまとって

色彩のない冬の里山に、ひときわ鮮やかな黄色の花を咲かせるのが福寿草である。福寿草―その名前を聞くだけでめでたい気分になってしまう。

新年を祝う花であるが、新暦の正月には咲かない。少なくとも福島では早い地域でも一月の中旬以降にならないと咲くことはない。月舘の里山でその花に気づくのは早い年でも一月の末、たいていは二月の中旬頃からで、旧正月を祝う習慣が残る当地では季節にふさわしい花と言えるのかもしれない。

花もそうだが、つぼみにも何とも言えない光沢を宿す。節分を過ぎるとこのつぼみを探すのが早春の楽しみだ。葉を出す前に光沢のある鮮やかな黄色い花をまず開く。咲き始めは地を這うような草丈だが、咲き進むにつれ丈を伸ばし、萼や花茎を観察できるようになる。花茎が伸びきって花がしぼむとキンポウゲ科特有の細かい切れ込みの入った葉が見えてくる。スプリング・エフェメラル（春の妖精）とも言われるように、六月にはいつの間にか姿を消してしまう。

＊

花工房にも福寿草が咲くスポットが何カ所もある。少しずつであるが株は年々大きくなり、飛び火するように株の数もいつの間にか増えているものだ。そしてそういう自然増だけではなく、別の場所で育てた株を「花工房のために、花工房を訪れてくれる人に楽しんでもらうために」植えて下さった人がいる。

福寿草を育成するサークルを主宰されていた（現在休止中）佐藤勝廣さんがその人だ。二〇一二年、二〇一三年とそれぞれおよそ二百カ所に、福寿草がご厚意で植えられた。まだまだ寒さの残る早春の里山を、唐鍬を担いで歩きながら「少し深めに植え付けて水をたっぷりと。株の周りをしっかり踏みつけて」と指示を出していた。

「北向きの斜面、あるいは夏に直射日光の当たらない場所」が適地とのこと。長い間育成に携わってきた勝廣さんの言葉には説得力がある。

福寿草の株を増やすには「株分け」が一般的だが、勝廣さんは実生（種から育てるもの）での繁殖にも挑戦している。芽が出ても全てが順調に生育するとは限らず、開花まで生き残るのはごく僅かだそうだ。「実生の株から一輪の花が咲くのに五年はかかるんです」春の妖精はゆっくりと成長する。われわれは忍耐力を試されているのかもしれない。その花言葉は「祝福」。花が咲くまでの歳月、そして厳しい冬の向こうには祝福が待っている。

春まだ浅い花工房の里山に福寿草を植える

お客様ノオト

このノートはたくさんのお客様の笑顔と思い出が詰まったつきだて花工房の宝石箱です

◆半澤様

月舘町の半澤薬局のご主人はなんとご兄弟3組そろって金婚式を迎えられたそうです。花束のサプライズもあり、ご家族と共にお祝いをされました。おめでとうございます。

◆こばと幼稚園様

いつもより少し遅いお泊りとなり今回はホタル見学に行けず夜の虫取りを楽しみました。カブト虫に感動! 翌日流しそーめん体験後お帰りになりました。良い思い出つくれたでしょうか?

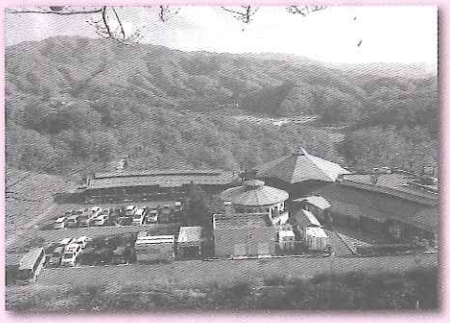
◆小手小学校PTA親子クリスマス会様

寒い中、すぐに固まってしまうバターに悪戦苦闘しながら、親子で力を合わせて焼き上げたバウムクーヘン。クリームを塗ってクリスマスケーキを作り、午後は松ぼっくりにドライフラワーやリボンを飾ってミニツリーを作りました。一足早いクリスマスに、こどもたちの顔も輝いていました。

◆ムーンシルド布川様

つきだて花工房杯ソフトボール大会にて優勝し、祝賀会を開催されました。年齢差を感じさせないくらい仲むつまじく鍋を囲んで盛り上がっていました。次回もよろしくお願いいたします。

自慢の一枚「マイ・ベスト」



山の会ビスターリの高橋一雄様より、記念すべき「マイ・ベスト」の最初の一枚をご応募いただきました。風に舞う枯れ葉が写り込んでいる、季節感たっぷりの写真です。
「スケールの大きさと施設の美しさ、紅葉期にもう一度撮りたいですね」とありました。ありがとうございます。のちほど、プレゼントをお送りいたします。

◆山の会ビスターリ様

福島市の方々がほとんどですが、旧伊達町の伊藤様が「ぜひ花工房で」とお声かけ下さり実現した宿泊。高橋様より「魔法のかまどで焼いたピザ焼き体験に驚き」とお便りいただきました。おだやかな朝、霊山登山にお出かけになりました。山の空気はおいしかったでしょうね。

梅見月会席　きさらぎ膳
技の限りを尽くしたお料理と真心尽くしのおもてなしで春を感じてください。
期間:2/18(水)～2/20(金)／時間:午後6時～／料金　5,400円(税込)

花々日記

のんびり歩きのススメ

外国の方とたまたま同席すると「決して目を合わすまい」と思うのは私だけではないと思います。国際社会と言われながら「英語アレルギー」の方は少なくないようで、そんな状況を打破しようと、小学校からの英語教育が進められているようです。中学生の頃、気恥ずかしくてなかなかきちんとした発音で、それどころか英語を話すこと自体できなかったことを思うと、小さい頃から英語を話す訓練をすることはいいことかもしれません。

その一方でこんなことも聞きます。様々な国から来た人たちの中でいざ議論をしようとすると言葉が出てこない、自分の国のことを紹介することができないと。「近くの神様より遠くの神様」という言葉もあるように、自分の身近のことはあまりに当たり前すぎて改めて目を向ける気にはなかなかなれないのが正直なところだと思います。

木もれ日通信でも掲載していた時期がありますが、月館では以前から「地元学」を推進していました。「学」という字がいかめしいので「(地元、身近の)あるもの探し」と言い換えてもいいかもしれません。

地元学は仙台と水俣(熊本)に起源があるようです。

特に水俣では汚染による自然と人間の分断、そして差別や補償などによる人間と人間の分断がさまざまな局面で起こりました。この分断をつなぎ直す(水俣では「もやい直し」と言われました)の役割を地元学が果たしたと聞きます。原発事故で引き裂かれた人間と自然の関係、避難や補償による人間関係の崩壊など私たちの福島を巡る状況ととてもよく似ていると感じます。目の前にある山、川、農地、道。また祭、結(ゆい)、言い伝えなど目には見えない様々なこと。それらと自分、家族、地域の関係性。そういった自分たちのアイデンティティを再発見する。これは今、ここで暮らす私たちにとっても重要なことかもしれません。

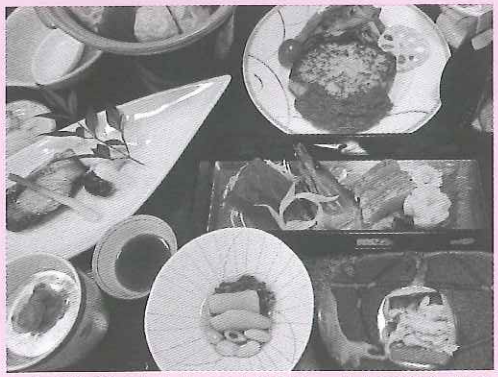
地元の資源捜しとも言える地元学で大切なのは「ゆっくり」歩くこと。のんびり歩くことで、五感で受けることのできる情報量は膨大なものになります。その中にはキラリと光彩を放つものがきっとあるはずです。そんなものを拾い集めて地図の上に記していけば、それはどこにもない素晴らしいガイドマップになるのではないでしょうか。

厨房だより
これがイチオシ!

厨房からはこの冬のお膳をご紹介いたします。

今回は、冬ならではの食材を使ったお料理となっております。特に、地元の青豆(アオバタ)と青菜を使い、カツオの風味をきかせた「数の子と地豆の土佐漬け」、また、柚子を合わせた味噌に漬け込んだ、脂ののった鰤(ぶり) を香りよく焼きあげた「鰤の柚子幽庵(ゆうあん)味噌焼き」がおすすめです。

冬のお膳は2月いっぱいのご提供となります。



中央下が「数の子と地豆の土佐漬け」、左中ほどが「鰤の柚子幽庵味噌焼き」です。

ランチでは伊達鶏メニューから伊達鶏そぼろ丼をおすすめします。伊達鶏のひき肉と玉ねぎ・椎茸を特製のタレで煮詰め、伊達鶏と野菜のうまみを生かした花工房の自信作です。ぜひご賞味下さい。そのほか、2月18日(水)から20日(金)まで、会席料理企画「梅見月会席 きさらぎ膳」を開催いたします。材料から器、そして盛りつけに至るまで、技を尽くし、召し上がっていただくお客様の笑顔を思い浮かべながらご用意致します。ぜひこの機会にご賞味下さいませ。

晩秋に贈る
小さな朗読会

13回目となる今回の「晩秋に贈る小さな朗読会」のテーマは「原点に帰る」。かなり本格的なセットを作り込んでの舞台となりました。メイン作品である「まめだのせっけん」(楠章子作「古道具ほんなら堂」より)のイメージ合わせて、懐かしのホウロウ看板(実は紙でした)を貼ったり、本物の古道具を調達したり。写真に写っている自転車もきれいに色を塗ってありますが、なかなかの年代物です。

今回はこの作品のためにオリジナルの楽曲を古後公隆さんが全て作曲。ご本人のチェロ、星優子さんのフルート、前田彩乃さんのピアノの生演奏に乗せて島岡安芸和さんが朗読を披露しました。ほんのりと心が温かくなるような声と物語は、まさに冬を迎えるこの季節にぴったり。

作品の最後には濱平奈津美さんの振り付きの歌声も入り、いつも以上に充実した舞台でした。

いつかどこかで見た光景がひろがる舞台

花工房杯
グラウンド・ゴルフ大会

第3回「花工房杯」グラウンド・ゴルフ大会が十一月九日、伊達市月館運動場で開催されました。この大会は月館GG協会の三大大会の一つで、毎年納会を兼ねて開かれます。四三名が晩秋の澄んだ青空の下、今年最後の大会を楽しみました。試合後は花工房に場所を移して表彰式を行い、会食しながら親睦を深めました。

総合優勝 斎藤尚一様(布川)

恒例の花工房杯グラウンド・ゴルフ大会で熱い闘いを繰り広げたみなさん

[日々の暮らしにハーブの香りを〜 ハーブ教室・今後の予定]

講 師:瀧田 勉 先生(ハーブとスローライフの研究家)
参加費:1,800円(材料費・税込)

1月26日(月) 「ハーブ、チョコ、チーズのフォンデュでハーブパーティー」
2月23日(月) 「ハーブの口紅、化粧水作り」
3月23日(月) 「春のハーブ開き・寄せ植え作り//ハーブリフォーム」

あんぽ柿生産再開！

震災、そして原発事故から四度目となるこの冬、月館のほとんどの地域であんぽ柿の生産がようやく再開されました。再開とは言っても正式に出荷制限が解除されたわけではなく、「加工再開モデル地区」に指定された地域で全量検査を条件に生産・出荷できるようになったものです。

柿を乾燥させて作るあんぽ柿は、重さが生の状態の四分の一になってしまうため、生の柿で放射能が検出されなくても製品になると検出される可能性があります。このため、干し場と呼ばれる柿を干す施設を徹底的に清掃し、放射能検査も生の状態、干している途中の状態、そして製品となった状態での全量非破壊検査（干し柿を刻まずに検査する）と、念には念を入れて作られます。

先日、生産農家のお宅を訪ねてみました。「三年も休んでたからあんまりやりたくないんだよ」と複雑な心境を話して下さいました。この農家さんは八十個から百個入るコンテナで約三百個分の柿を加工したとのこと。干し場には三万個に迫るほどの柿が吊されていることになります。それでも生産量が農家毎に割り当てられているため、最盛期の四分の一くらいなのだそうです。

「今年の秋は暖かったからどうなるかと思ったけど、やっと寒くなってホッとしたよ」干した柿を眺めて笑顔がほころびました。干し上がった柿はひとつひとつ、ピンセットでゴミを取り除き、パック詰めされます。

帰り道ではあんぽ柿に加工されることなく、木の根元に廃棄された柿をあちこちで見ました。来年は一粒でも多くの柿があんぽ柿になって、多くの人に届くようにと祈らずにはいられませんでした。

自慢の写真・レシピ大募集！

木もれ日通信では読者の皆さんに参加していただけるコーナー「マイ・ベスト」への投稿を引き続き募集中です。

部門は写真とレシピの2つ。

写真部門ではつきだて花工房で撮影した写真を、レシピ部門では前の号で発表する材料を使用したお料理のレシピを募集します。

写真部門はプリントの場合は2L以上で、裏に氏名を必ずご記入下さい。また、データの場合はJPEGとします。なお、撮影日と花工房のどのあたりで撮影したものかをお書き添え下さい。ジャンルは問いません。

レシピ部門は材料と分量、手順、完成写真をお送り下さい。

宛先は木もれ日通信編集部・〒960-0903　福島県伊達市月館町下手渡字寺窪7　E-Mailはflower@t-hanakobo.jpまで。

採用は各部門一点とします。また、採用された方にはプレゼントをお送りします。なお、発表は掲載をもって代えさせていただきます。

次号のレシピのお題は「リンゴ」です。

みなさんからのご応募、お待ちしております！

体験モニター参加者募集中！

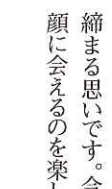
つきだて花工房では3／31まで「体験モニター」を募集しています。つきだて花工房のご宿泊またはご会食をご利用頂くと、交流館もりもりの体験プログラムにお得に参加できます。例えば、冬の人気プログラム「味噌仕込み」体験は一八〇〇円でOK！　ご利用は5名様まで。ご宿泊、ご会食ご予約時にお申し込み下さい。また、ご利用可能な体験プログラムについてはお問合せ下さい。なお、ご利用多数の場合はお断りすることがありますのでご了承くださいませ。

お便りから

季節の一品、食欲の秋、季節のおいしい野菜・果物がたくさん。ジャガイモのかりん糖、めずらしいですネ！　今度ぜひ作ってみたいと思います。（桑折町　E・S様）

同級会の記事に恩師・三星了一先生が。とても懐かしく娘の担任でバレーも教えて頂きました。会うことはできませんでしたが、写真を拝見し元気な様子に娘の小学校の頃が思い出されました。（伊達市　A・T様）

木もれ日通信ではみなさまからのお便りを随時募集しております。郵便またはメールでも受け付けております。ぜひお寄せ下さいませ。



木もれび52号プレゼント

ご希望の方は官製はがきに住所、氏名、年齢と木もれ日通信52号で印象に残った記事および感想をご記入の上、プレゼント応募券を貼ってつきだて花工房までお送り下さい。平成27年3月31日の消印まで有効です。なお、ご記入頂いた個人情報はつきだて花工房が責任を持って管理・保管し、当館のご案内をお送りするほか、サービス向上のために利用させて頂きます。

季節の鉢花 3名様にプレゼント

木もれ日通信51号プレゼント当選者
川俣町　森　啓子様
いわき市　相良美起江様
東京都　庄子　洋子様

編集後記

自宅の庭がイノシシに侵略されるようになってきた。せっかくの花壇もめちゃくちゃ…そこで今年の目標はズバリ！「狩り」（？）〈つきはな〉

今年の私のモットーは「笑顔で元気」笑顔で福来たれ〈さち〉

今年ものんびりと何にも惑わされず、我が道を行く。我が道って…？〈厚〉

新年を迎え、寒さとともに身の引き締まる思いです。今年も、皆さんの笑顔に会えるのを楽しみにしています！〈あか〉

※休館日
1/20、2/17、3/10、4/21（全て火曜日）

ムーンセラピー　月の明かりで疲れた心を癒したい。いますぐカレンダーにチェック!!

満月の夜	1/5（月）	
	2/4（水）	
	3/6（金）	
新月の夜	1/20（火）	
	2/19（木）	
	3/20（金）	

木もれ日通信52号 読者プレゼント 応募券

発行　つきだて花工房　〒960-0903　福島県伊達市月館町下手渡字寺窪7　TEL 024-573-3888　E-Mail flower@t-hanakobo.jp　HP http://t-hanakobo.jp/